

第4学年 道徳学習指導案

1. 主題名 ひろった あきかん (4-① 公德心, 規則の尊重)

2. 主題について

(1) 主題の位置とねらい

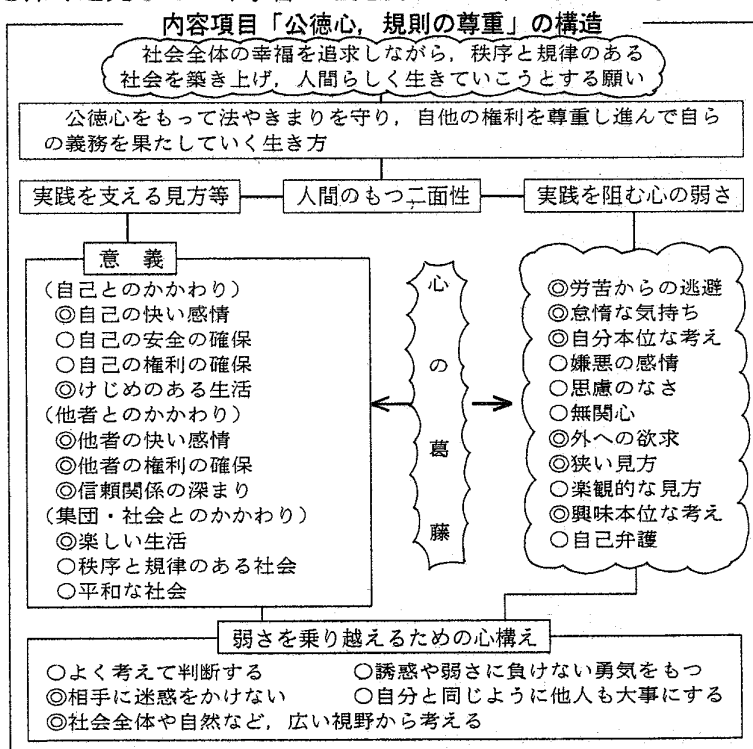
この期の子供たちは、それぞれが身勝手な行動をしていては、生活が成り立たないことを理解し、約束やきまりを守ったり、みんなで使う物を大切にしたりしてきている。しかし、自分一人ぐらいならいいだろうという気持ちをもったり、相手やみんなの立場から考えられなかったりして、なかなか約束やきまりを守れないこともある。このようなことから、この期の子供たちに、約束やきまりを守ることの大切さを理解させ、約束やきまりを進んで守り、公德を大切にできる態度を育てることが必要である。

そこで、本主題では、約束やきまりに関する問題場面に接したときに生じる心情や心情の変化を多面的に追究する活動を通して、約束やきまりを守ることによって、集団や社会生活が円滑に営まれることを理解し、約束やきまりを進んで守り、公德を大切にできる心情を育てることをねらいとしている。さらには、約束やきまりを守り、公德を大切にすることのすばらしさを学び取った喜びを味わうとともに、それらをこれからの自分の生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそうとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

きまりを守り、公德を大切にしていける生き方に関わる人間理解については、右の図のようにとらえることができる。

すなわち、きまりを守り、公德を大切にしていける生き方についての自覚を深めるために、約束やきまりを守って生活することによって、自分自身が明るく生活できたり、けじめのある生活ができたりすることや、相手の人が迷惑することなく、お互いの信頼関係が深まることを理解させる必要がある。



そして、それは、みんなが安心して楽しく暮らせることにつながることを理解させる必要がある。さらに、きまりを守ろうと思っても、自分本位の考えや怠惰な気持ちなどから、なかなか実践できないことに気付かせるとともに、その弱さを乗り越えていくことが、自他の権利を尊重し進んで自らの義務を果たしていく生き方につながることに気付かせer必要がある。

このようなきまりを守り、公德を大切にする生き方への共感を高めるために、本主題では、読物資料「ひろった あきかん」(自作資料)をとりあげることにした。この資料は、子供たちの体験に関連付けて作成した自作資料であり、川の清掃活動の中で主人公がたくさんのあきかんや紙くずが捨ててあることに疑問をもち、自分もきまりを守れなかったことを思い出したり、清掃活動を通してきまりを守ることの大切さを実感したりするというあらすじになっている。

この資料を取り扱うに際しては、まず、録音テープや一枚絵などを活用し、内容の理解を深め、主人公の心情に十分触れさせる。次に、主人公が、迷いながらもきまりを守れなかった場面に焦点を当て、自分本位の考えや、楽観的な考え、興味本位な考え等の心の弱さを共感的にとらえさせる。さらに、きまりを守ることの大切さについて深く考え、きまりを守っていこうと思ったときの主人公の心情の変化に気付かせ、きまりを守り、公德を大切にする生き方に対する見方・考え方・感じ方を広げたり、深めたりしていく。そして、その意義としては、自己の快い感情、他者の快い感情、楽しい生活等、心構えとしては、相手のことを考え、人に迷惑をかけないようにする、社会全体や自然といった広い視野から考えるなどを追究させる。そのために、子供たちの共通な体験と関係付けながら、主人公の心情について自由に対話させたり、意図的指名により発表させたりする。以上のようにして、主人公の生き方から自分なりの問題を解決させ、自他共に生きるよさの実感を深めていくことができるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、子供自らが、きまりを守り、公德を大切にすることによって、みんなの幸福を追求しながら、秩序と規律のある社会を築き上げ、人間らしく生きていこうとする喜びや生きがいにつながるものであると考える。

(3) 子供の実態

本学級の子供たちの本主題に関する経験や、心の弱さ、見方等は次の通りである。

〔表1〕 きまりが守れたり、きまりは大切だと思ったりした経験 総反応数 33

経験場面	反応数	経験場面	反応数	経験場面	反応数
ろうか歩行	12	人の話を聞く態度	3	図書室等での態度	2
横断歩道の歩行	5	あいさつ	2	遊びのルール	1
授業開始等の時間	5	決まった通学路	2	停留所での乗る順番	1

〔表2〕 実践を阻む心の弱さについての認識 総反応数 42

心の弱さ	反応数	心の弱さ	反応数	心の弱さ	反応数
いそいでいた	29	早い順番をとりたい	2	おもしろい	1
めんどう	3	夢中になってしまう	2	まあいいや	1
早く遊びたい	2	友だちも守らない	1	自分一人ぐらい	1

〔表3〕 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識

総反応数 43

見方・考え方・感じ方		反応数	見方・考え方・感じ方		反応数	見方・考え方・感じ方		反応数
対自己	けがをしない	15	対他者	迷惑がかからない	11	対社会	安心して生活できる	3
	いい気持ちになる	3		勝手なことがない	5		いやなことがない	2
	後悔しない	2		失礼にならない	1		楽しく生活できる	1

〔表1〕から分かるように、子供たちは、毎日の登下校や学校生活など、身近な生活場面の中で、きまりを意識することが多く、社会全体の立場から意識することは少ない。これは、社会全体の立場から物事を考える体験が不足しているためであると考え。そこで、きまりの意義を深く考えさせ、公德を大切にすることを養うために、地域での清掃活動など、社会全体の立場からきまりについて考えられるような体験との関連を図ることが大切である。

〔表2〕から分かるように、心の弱さとしては、用事があって「いそいでいた」からと答えた子供が多い。これは、守れなくても仕方ないといった自分本位な考えや自分の行為を正当化する気持ちが働いているためと考える。〔表3〕から分かるように、実践を支える見方等としては、「けがをしない（自己の安全の確保）」「迷惑がかからない（他者の権利の確保）」といった自分や他者とのかかわりの面の反応が多くなっている。これは、集団や社会にかかわる体験や学習が十分でないためであると考え。そこで、前述したような体験との関連を図りながら、「みんなが楽しく生活できる」などの意義を追究させる必要がある。

一方、道徳の授業においては、自分の生活経験を想起し問題意識を持って学習に取り組む姿が見られるが、自分自身の問題意識を主人公や自分、友だちの生活経験と十分関わらせながら、実践を支える見方等を広げたり、深めたりするまでには至っていない。

(4) 指導上の留意点

- ア きまりを守り、公德を大切にしていける生き方についての自分なりの問題意識をもたせるために、子供たちの共通体験である甲突川の清掃活動の様子を想起させ、きまりを守ろうという気持ちときまりを守れないときの気持ちとの矛盾に気付かせる。
- イ 実践を阻む心の弱さを共感的にとらえさせるために、資料一読後の感想から、主人公が、きまりを守ろうかどうか迷う場面に焦点を当てる。そして、自分や友だちの経験をかかわらせながら、「おもしろそう」「ばかにされたくない」「まあいいや」などの心の弱さを引き出していく。また、実践を支える見方等を広げたり、深めたりするために、川をきれいにした後の主人公の心情の変化に着目させ、そのときの心情について自由に対話させる。さらに、自他共に生きるよさの実感を深めるために、「しなければ…」「川がよごれる」「生き物や人にめいわく」「人にめいわくをかけず、みんなのことを考える」などの見方等を甲突川での清掃活動での自らの行為や内面と深く関係付けて追究させる。
- ウ きまりを守り、公德を大切にできる生き方についての自覚を深めるために、主人公や友だちの生き方と、個や共通の体験の中での自分の生き方とを比較・検討させ、自分なりの問題を解決させる。そして、副資料を使って、これからの自分の生き方への見通しをもたせ、きまりを守り、公德を大切にできる生き方への実践意欲を高める。

3. 本 時

(1) ねらい

- ア 公德心，規則の尊重にかかわる自分自身の生き方に気付き，自分自身のもつ心の葛藤を乗り越え，きまりを守り，公德を大切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 自分本位な考えや，楽観的な考えなどから，きまりを守れなかったり，きまりを軽んじたりすることがあることに気付き，一人一人がきまりを守り，公德を大切にすることで，人に迷惑をかけずに，みんなが楽しく生活できるようになることを，自らの体験と関連付けて理解することができる。

(2) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 きまりが守れたり，守れなかったりした経験について話し合う。 きまりが守れるためには，もっとどんな気持ちが必要なのだろう。	(分) ↑ 5	○ 一人一人に確かな問題意識をもたせるために，甲突川のごみの写真を見せ，きまりを守ろうという気持ちと守れないときの気持ちとの矛盾に気付かせる。
	2 資料「ひろった あきかん」を読んで，「公德心，規則の尊重」にかかわる生き方について話し合う。 (1) ぼくや友だちの言動や心情，心情の変化について感想を持ち発表する。 (2) ぼくの心情（心の弱さ）について話し合う。 ・ 拾った空かんを見て思ったこと ・ きまりを守ろうかどうか迷っているときの心の弱さ	↓ 7	○ 追究したい場面に焦点化できるように，資料を読んで思ったり，感じたりしたところにサイドラインを引かせる。 ○ 空かんを拾ったときのぼくの心情への共感を高めるために，甲突川の清掃活動で子供たちが実際に拾った空かん等を提示し，心の弱さを次のように追究させる。 ⑤ 「なぜきまりが守れなかったのだろうか。」 おもしろそう→ばかにされたくない →まあいいや
見付ける	(3) 清掃活動を終えたときのぼくの感動やその心の背景について話し合う。 ・ きれいになった川を見たときの感動 ・ ぼくが大事にした気持ちや考え	↓ 25	○ 自他共に生きるよさの実感を深めるために，甲突川での清掃活動を通して，思ったこととぼくの心情を関係付けて，自他共に生きるよさや心構えを次のように追究させる。 ⑤ 「あきかんをひろいながら，ぼくはどんなことを考えたのだろうか。」 しなれば…→川がよごれる→生き物や人にめいわく→みんなのことを考える
	3 きまりを守るためには，どんな気持ちが必要か話し合う。 ・ 自分なりの問題の解決 ・ 大事にしたい気持ちや考え	↓ 8	○ きまりを守り，公德を大切にしている生き方についての自覚を深めるために，個や共通の体験の中での自分の生き方と関係付けて話し合わせる。 ○ 実践意欲を高めるために，社会奉仕活動に取り組んでいる人を招いて話を聞かせる。
深める	4 社会奉仕活動に取り組んでいる人の話を聞く。 ・ 活動している人々の願い	↓	
見通す		↓	